

和装の特性を活かした次世代ファッションの事例開発

西 尾 綾 香*

丹後ちりめんの新たな需要層の開拓を目的とし、和装の特性を活かした次世代ファッション製品の企画プロセスを構築した。まず、和装が有する精神的および物理的特性を明確化し、次世代ファッションにおけるデザインの志向との組み合わせるための指針を整理した。これに基づき、丹後ちりめんを用いたファッションアイテム 2 種を試作し、製品開発の具体的な事例として提示した。

1はじめに

丹後地域における和装用白生地「丹後ちりめん」の生産高は、図 1 のとおり近年著しく減少している¹⁾。同様に、全国的な和装市場も縮小傾向にあり²⁾、丹後産地の主要産業である和装用織物の需要低下が顕著となっている。丹後は国内和装用白生地の約 70% を生産しており³⁾、この傾向は地域経済に対する影響が大きいと考えられる。

(公財)京都産業 21 北部支援センターが令和 5 年度に実施した「丹後織物業の景況・動向調査」の結果は図 2 のとおりである⁴⁾。85 件の回答事業者の最小 47% が「新製品の企画・開発」または「最終製品の開発」の必要性を認識しており、産地全体として製品開発力の強化が求められていることが明らかとなった。

これらの課題を解決するためには、丹後ちりめんの需要層の拡大と、丹後織物産地の製品企画力の向上が重要であると考えられる。新製品の展開にあたっては、インテリアや雑貨など和装以外の用途も考慮されるが、丹後ちりめんは、着物の生地としての用途が 300 年以上⁵⁾にわたり継続・蓄積されてきた。このため、和装の特性を基盤とした製品開発に再注目することは、素材を最大限に活かすうえで有効であると考えられる。

本研究では、丹後ちりめんの新たな需要層の開拓

を目的として、和装の特性および次世代ファッションの志向に関する調査を実施した。得られた知見をもとに、和装の特性と次世代デザインを組み合わせるための指針を整理し、具体的な応用例として 2 種類のファッションアイテムを試作した。

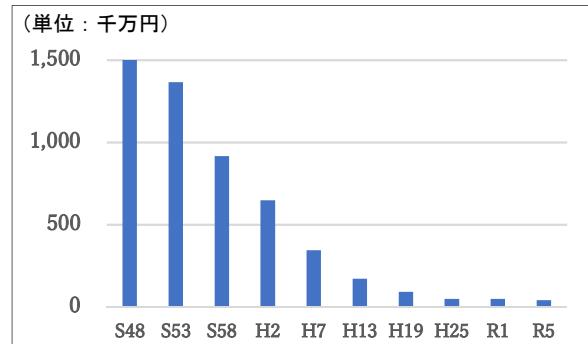


図 1 丹後産地後染織物(絹及び人織)生産高

[参考文献¹⁾から作成]

今後必要な取組（製品の企画・開発について）

(複数回答)

新製品の企画・開発	40 件
製品種類の変更	17
最終製品の開発	17

図 2 丹後織物業の景況・動向調査

[参考文献⁴⁾から抜粋]

* 技術支援課 技師

2 調査

2. 1 和装の特性についての調査

2. 1. 1 雑誌の調査

次世代ファッションに和装の要素を応用するためには、和装の特性を明確に定義する必要がある。はじめに、和装業界で使用されているフレーズを分析し、和装がどのような観点で表現されているかを把握することを目的に、雑誌記事の見出しを対象とした調査を実施した。調査対象は和装の伝統的な文化および最新トレンドを特集する専門誌『美しいキモノ(婦人画報社)⁶⁾』のうち見出しが確認できた 1957 年秋号から 2024 年冬号までの計 123 冊とした。調査方法は、特集されている記事の見出しから頻出フレーズを抽出した。

2. 1. 2 和装と洋装の比較調査

和装に特有の着こなしや色使いの特徴を明らかにするため、和装と洋装それぞれの装いをした人々の様子を観察し、比較調査を行った。

調査対象は、和装を着用した来訪者が多く集まる大規模イベント会場及び洋装の来訪者が多く訪れる都市型百貨店の服売場とした。

調査方法は、来訪者が着用している衣服の色彩および模様を観察し、傾向を記録した。

2. 1. 3 和裁の文献調査

和装の成り立ちや物理的な特性を調べるために、きもの雑誌の他、和服についての理論が書かれたものなど和裁に関する文献の調査を行った。

2. 2 次世代ファッションの調査

2. 2. 1 若者の好きなデザイン分布の調査

令和 5 年度の研究成果である若者の好きなデザインに関する分布(図 3)の再分析を行った。

2. 2. 2 ファッショントレンドの調査

次世代ファッションの志向を把握するため、ファッションビジネス業界の専門誌およびファッション史に関する文献を対象に、トレンド情報の収集と分析を行

った。

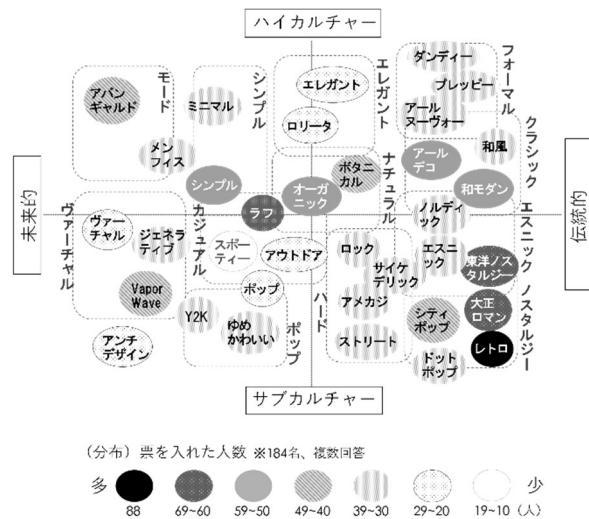


図 3 若年層の好きなデザインの分布図

[筆者作成]

3. 調査結果

3. 1 和装の特性

これまでの調査の結果から和装の特性を定義する。雑誌の調査結果は表 1 のとおりである。頻出フレーズのうち最も多かったものは、季節に関わるフレーズであった。次に多かったものは TPO に関するフレーズであり、その次に多かったものは色と模様に関するフレーズであった。

和装と洋装の比較では、洋装の来訪者と比べ和装の来訪者は色と模様を楽しんでいるということが分かった。また、和装の客は模様のあるものを着用しており、服の色については図 4 のような意図的な配色が見られた。

雑誌の調査、和装と洋装の比較調査及び和裁の文献調査の結果から、和装の特性について精神的特性と物理的特性を表 2 のとおり定義した。精神的特性は季節を楽しむ、TPO に合わせる、色、模様を楽しむという 3 つの特性とした。物理的特性は、直線構成、体に合わせる、ちりめんの質感という 3 つの特性とした。

表 1 雑誌の調査結果[筆者作成]

順位	系統	個数 (588 個 中)	フレーズの例
1	季節に に関する言葉	140	マダムの夏支度、春の染め帯、秋に着るコート、今冬のコート、お正月
2	TPO に に関する言葉	83	礼装、カジュアル、着ていく場所がキーワード、テーマのあるきもの
3	色と模様 に関する 言葉	78	自然の色を慈しむ、自分に似合う色、小紋のコーディネイト

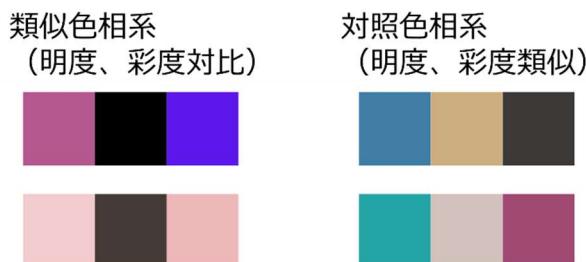


図 4 和装の買い物客に見られた意図的な配色
[筆者作成]

表 2 和装の特性[筆者作成]

精神的特性	季節を楽しむ	TPO に合わせる	色、模様を楽しむ
物理的特性	直線構成	体に合わせる	ちりめんの質感

3.2 次世代ファッショの志向

そして、次世代ファッショの志向を定義する必要であるため、若年層の好きなデザインの嗜好及びトレンド予測情報をもとに、次世代ファッショにおける有望なデザイン群を選定した。

3.2.1 今回取り入れないデザイン群

まず、今回取り入れないデザイン群を図 3 の分布

の中から 3 つ示す。まず 1 つは、「ハイカルチャー」かつ「伝統的」に位置するグループである。これは既存にある丹後織物製品のデザインに関して層が厚いため、新規性が低いとした。

次は、「サブカルチャー」かつ「伝統的」に位置する「ノスタルジー」グループである。これは令和 5 年度の調査の結果、最も得票のあったグループであり、人気は見込めるもののレトロブームの過剰露出により長期的な視点では下火になると予測されるからである。

そしてもう 1 つは中央に位置する「シンプル」「ラフ」グループとする。これは、人気のあるグループではあるがそのデザインの特性から時代に左右されない普遍的なものであるため、次世代の志向として注目するものではないとした。

3.2.2 今回取り入れるデザイン群

今回取り入れるべきデザイン群を図 3 の分布の中から 3 つ示す。まず 1 つは、下半分の中央付近の「サブカルチャー」に位置するグループである。これは既存にある丹後織物製品に少ないデザインであり、新たな需要層を開拓できるものとした。

次は、中央付近に位置する「スポーティー」「アウトドア」グループである。ウェルネスと呼ばれるような心と体の健康への意識の高まりから今後注目度が高いものとした。

そして、もう 1 つは「未来的」に位置するグループとする。これは、DX 化の進展に伴い、デジタル表現が今後注目される可能性が高い。

これらの分析から、次世代のデザイン群は図 3 での「未来的」軸を中心とした「ヴァーチャル」「VaporWave」「スポーティー」「ジェネラティブ」「サイケデリック」「アバンギャルド」「ストリート」「Y2K(Y3K)」「ゆめかわいい」「アウトドア」「ロック」「アメカジ」「メンフィス」の 13 個とした。

3.3 組み合わせ表の完成

以上の結果から、表 3 のとおり和装の特性と次世代ファッショの志向の組み合わせ表を作成した。この表を埋めることで、商品企画やコンセプト設定に活用

		和装の特性						完成品	
		精神的特性			物理的特性				
		季節に合わせる	TPOに合わせる	色、模様を楽しむ	直線構成	体に合わせる	ちりめんの質感		
次世代 の デザイン	VaporWave	カニの 図案をプリント	—	3Dグラフィック	直線的シルエット	—	PC画面の質感	PC画面風 羽織	
	VaporWave	冬の海の 図案をプリント	—	グラデーション	—	—	PC画面の質感	PC画面風 もんべ	
	スポーティー	—	ストリートで おしゃれをする時	ジャージラインの アクセント	耳の色を切り替え 直線裁ち	腰ひもで調整	心地良い生地	耳ラインのちりめんジャージ	

表 3 和装の特性と次世代ファッショングの志向の組み合わせ表[筆者作成]

でき、ファッショングアイテムの試作が可能となる。

3.4 試作

開発事例として、2つのファッショングアイテムを図5及び6に示す。図5のPC画面風ちりめん羽織は、表3の次世代デザインとして「VaporWave」を選定し、精神的特性としては「季節に合わせる」ことを意識したカニをプリントし、物理的特性として「直線構成」のような直線的シルエットを組み合わせて開発した。

図6の耳ラインのちりめんジャージは精神的特性として「TPOに合わせる」ことをストリートでのおしゃれ着という用途を設定し、物理的特性として「直線構成」のような生地の耳をジャージのラインとして染め、「体に合わせる」ように腰ひもで調整するデザインとし、「ちりめんの質感」を組み合わせたものである。

これらの事例をファッショングやデザインの専門家へ提案したところ高評価を得たため、本組み合わせ表は新しいファッショングアイテムの開発に活用できることが期待される。



図5 PC画面風ちりめん羽織



図6 耳ラインのちりめんジャージ(イラスト)

5まとめ

この成果を普及するためには、デザイナーや事業者との関係を発展させること、SNS等を活用した積極的なPRが課題である。丹後ちりめんの新たな需要層の開拓を目指す織物事業者に活用いただけるよう、今後も継続的に研究を進めていく。

参考文献

- 1) 丹後織物工業組合;産地の概況と統計・資料
- 2) 経済産業省;和装振興に向けて(令和7年3月)
<https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/waso_kyogikai/pdf/013_03_00.pdf>(最終確認2025.3.31)
- 3) (一財)日本絹人織織物工業会;主要絹織物産地 生産推移
<<http://www.kinujinsen.com/Portals/0/pdf/statistics/tuki-silk-sanchi.pdf>>(最終確認 2025.3.31)
- 4) 公益財団法人 京都産業 21 北部支援センタ

一;令和5年度[丹後織物業の景況・動向調査] 報告書

<<https://www.ki21.jp/north/wp-content/uploads/2024/03/R5orimono-keikyoR60329.pdf>>(最終確認 2025.3.31)

5) 丹後織物工業組合;THE SILK「丹後ちりめんの歴史」

<<https://tanko.or.jp/tangochirimense/history/>>(最終確認 2025.3.31)

6) 婦人画報;「美しいキモノ」

<<https://www.fujingaho.jp/uts-kimono/>>(最終確認 2025.3.31)